

【緑地を楽しむ本】

『ひるまのおつきさま』

月刊・かがくのとも2010年10月号 遠藤湖舟 さく

福音館書店



月々に 月見る月は 多けれど
月見る月は この月の月

中秋の名月の9月22日、その後の十三夜10月20日と、何かと空を見上げて悠然とした月に心を動かされるこの頃です。だ

けれど、月といえば当然夜見るもの、昼間に見ることはありません。

ところが「ひるまのおつきさま」では、月から「ひるま僕を見つけてね」とお誘いの手紙が届きます。そういえば月はひるまでも空に浮かんでいるのでした。ただまわりが明るいので空に溶け込んでしまって、見つけにくいのですね。でも青い空をバックにうっすらと淡い白い月が浮かんでいるのは、夜の月とはまた違ったやさしがあります。見つけると、なんだか得をした気分。

夜の月と同じく、ひるまの月も当然満ち欠けがあります。また出てくる場所、時間も毎日変わります。この本では今年の10月から11月にかけて、ひるまのいつ頃どのあたりにどんな月が見られるか、日にちを追って教えてくれます。これを参考にぜひひるまの月をチェックしてみましょう。

ずいぶん昔ですが、玉川大学に「真昼の星」を見に行きました。月だけでなく、星だって当然昼間もそこにいるのです。太陽の光にかき消されて見えないだけ。天体望遠鏡で青い空を背景に白い点のような星が見えた時は、感激しました。星に比べると月はずっと探しやすいです。何しろ肉眼で見えるのですから。

今日の月は空のどのあたりにいるでしょうか。

(小川)